

科目名	論理的思考						
科目名(英)	Logical Thinking						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野見山 待子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	物事を論理的に思考し、客観的に評価できるような物の見方・考え方を学び、根拠に基づいた思考力と分析力、また論理的に表現し伝える力を身につける。(DP4・5・6)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				思考の形式および法則を理解した上で論理的思考を習得する。	
	○	○				他者の意見を客観的に評価し、批判的思考ができる能力を養う。	
	○	○				自己の考えや思考を他者に伝える為の文章表現力を養う。	
	○	○			○	論理的に物事を捉えそれを他者に説明(文章・発言)することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	論理的であるとは				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	論理的思考の方法の概要				指定課題への取り組み	
	3	接続表現				指定課題への取り組み	
	4	論証図				指定課題への取り組み	
	5	演繹と推論				指定課題への取り組み	
	6	否定				指定課題への取り組み	
	7	両立可能なもの・不可能なもの				指定課題への取り組み	
	8	論証を批判的に捉える(クリティーク)				指定課題への取り組み	
	9	論理的な文章表現方法－論文－ 概要				指定課題への取り組み	
	10	論理的な文章表現方法－論文－ テーマを基に論文作成				指定課題への取り組み	
	11	論理的な文章表現方法－論文－ 発表				指定課題への取り組み	
	12	論理的な思考表現方法－ディベート－ 概要				指定課題への取り組み	
	13	論理的な思考表現方法－ディベート－ 準備				指定課題への取り組み	
	14	論理的な思考表現方法－ディベート－ 実践				指定課題への取り組み	
15	まとめ				指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	GCB II (キャリアデザイン)						
科目名(英)	Global Citizen Basic II (Career Design)						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	徳久 晶子		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	専門学校にて専任教員として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護師は常に学び続ける生涯学習者であり、どのような看護師になりたいかとキャリアデザインを描くことが大切である。様々な看護師の語りを聞くことで、現在思い描いている志を確固たるものとし、生涯学習者として必要な学ぶ姿勢、学習方法を身につけることを目的とする。(DP1・2・5・6)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護師への志を述べるができる。	
	○	○				これからの看護学生・看護師に対するキャリアデザインを述べるができる。	
	○	○				キャリアデザイン実現のための学習方法の基礎を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生涯学習者としての学習方法の基礎知識:ラーニングピラミッド				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	生涯学習者としての学習方法の基礎知識:知識・行動パターン・能力の獲得プロセス				指定課題への取り組み	
	3	学習方法の実践(インプット・アウトプット)				指定課題への取り組み	
	4	学習計画の立案・発表				指定課題への取り組み	
	5	キャリアデザインとは				指定課題への取り組み	
	6・7	看護師への夢と志について語り合おう				指定課題への取り組み	
	8・9・10	様々な現場で活躍する看護師へのインタビュー				指定課題への取り組み	
	11・12	自分のキャリアデザインについて明確化しよう				指定課題への取り組み	
	13・14	キャリアデザイン発表				指定課題への取り組み	
	15	まとめ				指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	社会と生活						
科目名(英)	Understanding for Society and Lifestyles						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	武藤 桐子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	大きく変動する現代社会の中で、看護職者として現代社会のあり方をとらえ直すとともに、社会の基盤をなす一人ひとりの人間の生活・暮らしを理解することを通じて、患者や住民の生活を援助することの重要性を学習する。(DP1・4)						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間一人ひとりの「生活」を理解することを土台に、「社会的な健康」と科学的にとらえた「健康行動」について理解する。	
	○	○				人々と暮らす「家族」や「集団」、「組織」について社会科学的な観点から学び、さらに「地域社会」や「グローバルな社会」とは何かの基本を理解する。	
	○	○				支援の視点だけでは解決できない「対立と協働」について、対立を避けるのではなく、対立の関係を協調・協働へ展開するあり方を理解する。	
	○	○				自分たちにとってあたりまえとされているさまざまな経験に目を向けながら、それらの特徴づけている社会制度や文化の存在に気づき、これらとのかわりにおいてこのあたりまえをとらえ直す。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会学の基礎概念				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	社会関係と健康				指定課題への取り組み	
	3	看護と生活・社会との関わり				指定課題への取り組み	
	4	個人の生活の理解				指定課題への取り組み	
	5	健康・病気の社会格差				指定課題への取り組み	
	6	経験としての病				指定課題への取り組み	
	7	労働と健康				指定課題への取り組み	
	8	性差と家族				指定課題への取り組み	
	9	医療者－利用者関係				指定課題への取り組み	
	10	看護と生活・社会との関わり／社会				指定課題への取り組み	
	11	個人の生活の理解				指定課題への取り組み	
	12	家族／社会的な健康				指定課題への取り組み	
	13	集団・組織／個人および集団における対立と協働				指定課題への取り組み	
	14	地域社会／グローバリゼーションと社会				指定課題への取り組み	
15	まとめ				指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	人体の構造と機能 I						
科目名(英)	Structure and Function of Human Body I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小金丸 翔子		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、血液・循環・リンパ・免疫について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。(DP3)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				血液の生理と造血のしくみ・免疫について理解できる。	
	○	○				循環器系の構造と機能が理解できる。	
	○	○				免疫系の構造と機能が理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人体の解剖と機能 I の概要説明			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	血液の機能と成分			指定課題への取り組み		
	3	血球とその機能			指定課題への取り組み		
	4	血液型と輸血			指定課題への取り組み		
	5	心臓の構造と機能			指定課題への取り組み		
	6・7	血管と循環			指定課題への取り組み		
	8	心臓・血管の成長と老化			指定課題への取り組み		
	9	リンパ系			指定課題への取り組み		
	10	免疫系のおおまかなしくみ			指定課題への取り組み		
	11	獲得免疫系のしくみ			指定課題への取り組み		
	12	免疫系と感染症			指定課題への取り組み		
	13・14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習			指定課題への取り組み		
	15	まとめ			指定課題への取り組み		
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎				80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	人体の構造と機能Ⅱ						
科目名(英)	Structure and Function of Human BodyⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野中 紀子		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	<p>人体の発生からその構造と機能についての基礎知識を養う。人体の構造・機能を基礎に病気と治療で系統的に理解する事をねらいとした。呼吸器では生命維持に必要な酸素の調整を司る器官の正常な構造と機能を理解し、身体的側面のアセスメント能力の基礎的知識と科学的根拠・観察力・判断力を養う。消化器では生命維持に必要な栄養の摂取と代謝を司る器官の正常な構造と機能を理解し、身体的側面のアセスメント能力を養う。腎泌尿器では生命維持に必要な水分(体液)の調整「情報処理・調整」について理解し、身体的側面のアセスメント能力を養う。(DP3)</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				呼吸器系の構造と機能が理解できる。	
	○	○				栄養摂取と吸収を司る器官の構造と機能を理解できる。	
	○	○				腎泌尿器のしくみと機能について理解する。	
	○	○				呼吸器・消化器・腎泌尿器の解剖生理を理解し、病態の理解や看護をする上での身体的側面のアセスメント能力を養うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	呼吸器系の構造と機能(呼吸器系の役割、鼻と鼻腔、咽頭、喉頭、気管と主気管支、肺)				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	呼吸のプロセス(換気、外呼吸・内呼吸、ガスの運搬)				指定課題への取り組み	
	3	呼吸の調節(化学受容器と呼吸器系の受容器、呼吸中枢)				指定課題への取り組み	
	4	呼吸の調節(呼吸調節の効果器である呼吸筋、呼吸のさまざまな異常)呼吸器系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	5	食欲(食欲と摂食行動、食欲の調節)咀嚼(口腔の構造と機能、歯、咀嚼)				指定課題への取り組み	
	6	嚥下(咽頭の構造と機能、食道の構造と機能)				指定課題への取り組み	
	7	消化(胃の構造と機能、小腸の構造と機能、肝臓の構造と機能、胆嚢の構造と機能、膵臓の構造と機能)				指定課題への取り組み	
	8	吸収(糖質の消化と吸収、脂肪の消化と吸収、タンパク質の消化と吸収、ビタミンの吸収、水の吸収)				指定課題への取り組み	
	9	排泄 ①大腸の構造と機能②排便の機序 消化器系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	10	腎臓(腎臓の構造と機能、尿の生成、血液成分の調節)				指定課題への取り組み	
	11	尿管・膀胱・尿道				指定課題への取り組み	
	12	排尿の生理(蓄尿の機構、排尿の機構、骨盤底筋群の役割)泌尿器系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	13・14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習				指定課題への取り組み	
	15	まとめ				指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
授業態度				◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	人体の構造と機能Ⅲ					
科目名(英)	Structure and Function of Human BodyⅢ					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松本 好美	
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	身体の中の情報ネットワークとして、身体を機能させる指令情報を伝達する、身体が受けとる感覚情報を伝達する、身体の恒常性を調整する、これら神経系・感覚器系・内分泌系に関わる仕組みと働きについて学ぶ。(DP3・4)					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				中枢神経系の構造と機能について説明できる。
	○	○				末梢神経系の構造と機能について説明できる。
	○	○				感覚受容器の構造と機能について説明できる。
	○	○				中枢神経と末梢神経と感覚器のつながりを説明できる。
	○	○				内分泌の構造と機能が理解できる。
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	神経系(構造に基づく分類、神経組織、興奮の伝導・伝達)			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	中枢神経(脳を守る構造と機能:髄膜と髄液と脳室)(脳の構造と機能:大脳、小脳、脳幹、間脳)			指定課題への取り組み	
	3	中枢神経(脳の構造と機能:大脳、小脳、脳幹、間脳)(脊髄の構造と機能、反射)			指定課題への取り組み	
	4	末梢神経(脳神経、脊髄神経)(自律神経)、神経伝達物質 神経の伝導路(下行伝導路、上行伝導路)、反射の種類としくみ			指定課題への取り組み	
	5	感覚受容器(感覚の種類)、体性感覚(深部感覚)、内臓感覚(内臓感覚の受容器と機能)			指定課題への取り組み	
	6	体性感覚(皮膚感覚:皮膚の構造と機能、触覚、圧覚、温度感覚、痛覚)			指定課題への取り組み	
	7	特殊感覚(視覚:眼球の構造と機能、視覚、視覚伝導路、眼球運動、眼球付属器、反射)			指定課題への取り組み	
	8	特殊感覚(聴覚:耳の構造と機能、聴覚、聴覚伝導路、平衡覚)(嗅覚、味覚、各伝導路)			指定課題への取り組み	
	9	中枢神経と末梢神経と感覚器のつながり、脳循環(脳に分布する血管)まとめ			指定課題への取り組み	
	10	内分泌系とホルモン(ホルモンの概念、フィードバック機序)脳にあるホルモン分泌器官(視床下部、下垂体、松果体)			指定課題への取り組み	
	11	甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、			指定課題への取り組み	
	12	消化管、腎臓、胸腺、心臓、内分泌系の成長と老化			指定課題への取り組み	
	13・14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習			指定課題への取り組み	
	15	まとめ			指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			
	授業態度			◎		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	人体の構造と機能Ⅳ						
科目名(英)	Structure and Function of Human BodyⅣ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松藤 沙弥香		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて助産師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、骨筋・生殖器・遺伝・染色体・妊娠・分娩について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。(DP3)						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の骨格系および筋系の構造と機能について理解できる。	
	○	○				人体の支持と運動機能における様々な働きについて理解できる。	
	○	○				生殖器のしくみと機能について理解できる。	
	○	○				妊娠と出産の経過について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人体の解剖と機能Ⅳの概要説明			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	骨と骨格・骨の組織、骨の働き・骨の形態			指定課題への取り組み		
	3	関節の構造と種類			指定課題への取り組み		
	4	筋の種類と機能			指定課題への取り組み		
	5	身体の運動と骨格筋			指定課題への取り組み		
	6	女性生殖器の構造と機能			指定課題への取り組み		
	7	性周期・乳腺			指定課題への取り組み		
	8	妊娠の成立と胎児の発育			指定課題への取り組み		
	9	分娩の機序・経過			指定課題への取り組み		
	10	産褥の経過			指定課題への取り組み		
	11	乳房の構造と泌乳のメカニズム・女性生殖器の成長と老化			指定課題への取り組み		
	12	男性生殖器の構造と機能			指定課題への取り組み		
	13	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習			指定課題への取り組み		
	14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	病態と治療 I					
科目名(英)	Pathophysiology and Therapeutics I					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	井上 修二郎	
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて医師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	血液器系・循環器系・リンパ・免疫・内分泌系骨筋器系疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための知識を学ぶ。(DP3)					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				血液造血管系の病態と検査・治療について述べるができる。
	○	○				循環器系の病態と検査・治療について述べるができる。
	○	○				免疫系の病態と検査・治療について述べるができる。
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる5 血液』メディックメディア 『病気がみえる2 循環器』メディックメディア 『病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症』メディックメディア 講師配布資料					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	血液造血管系の病態の理解:白血球増加症・減少症				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	血液造血管系の病態の理解:貧血・脾腫				指定課題への取り組み
	3	血液造血管系の病態の理解:赤血球系の疾患、白血球系の疾患				指定課題への取り組み
	4	血液造血管系の病態の理解:リンパ網内系疾患、出血性疾患				指定課題への取り組み
	5	循環器系の病態と理解:胸痛・動機・呼吸困難				指定課題への取り組み
	6	循環器系の病態の理解:浮腫・チアノーゼ・四肢の疼痛				指定課題への取り組み
	7	循環器系の病態の理解:虚血性心疾患・心不全				指定課題への取り組み
	8	循環器系の病態の理解:血圧異常・不整脈				指定課題への取り組み
	9	循環器系の病態の理解:心膜炎・心筋疾患、				指定課題への取り組み
	10	循環器系の病態の理解:肺性心・動静脈系疾患				指定課題への取り組み
	11	循環器系の病態の理解:リンパ系疾患、高脂血症				指定課題への取り組み
	12・13	免疫系の病態の理解:膠原病(関節痛・関節炎・レイノー現象など)				指定課題への取り組み
	14・15	免疫系の病態の理解:関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・シェーングレン症候群・全身性強皮症・多発筋炎・皮膚筋炎・ベーチェット病など				指定課題への取り組み
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			80%
	授業態度				◎	20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	病態と治療Ⅱ					
科目名(英)	Pathophysiology and TherapeuticsⅡ					
単位数	2単位	時間数	45時間	担当者	井村 洋	
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて医師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	呼吸器系・消化器系・腎泌尿器疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための知識を学ぶ。(DP3)					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				呼吸器系疾患の病態と検査・治療について述べるができる。
	○	○				消化器系疾患の病態と検査・治療について述べるができる。
	○	○				腎・泌尿器系疾患の病態と検査・治療について述べるができる。
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる4 呼吸器』メディックメディア 『病気がみえる1 消化器』メディックメディア 『病気がみえる8 腎・泌尿器』メディックメディア					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1・2	呼吸器系の病態の理解:気道疾患				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	3	呼吸器系の病態の理解:腫瘍疾患				指定課題への取り組み
	4	呼吸器系の病態の理解:間質性肺疾患・感染症				指定課題への取り組み
	5	呼吸器系の病態の理解:胸膜・縦隔疾患				指定課題への取り組み
	6	呼吸器系の病態の理解:肺循環疾患・呼吸不全				指定課題への取り組み
	7	呼吸器系の病態の理解:呼吸調節に関する疾患・胸部外傷				指定課題への取り組み
	8・9	消化器系の病態の理解:食道疾患				指定課題への取り組み
	10・11・12	消化器系の病態の理解:胃・十二指腸疾患				指定課題への取り組み
	13・14・15・16	消化器系の病態の理解:胆のう・膵臓疾患				指定課題への取り組み
	17・18・19	腎泌尿器系の病態の理解:腎疾患				指定課題への取り組み
	20・21・22	腎泌尿器系の病態の理解:泌尿器疾患				指定課題への取り組み
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。				
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
筆記試験		◎	◎			80%
授業態度					◎	20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	病態と治療Ⅲ					
科目名(英)	Pathophysiology and TherapeuticsⅢ					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	名取 良弘	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	神経系・感覚器系・内分泌系の機能障害・疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための知識を学ぶ(DP3)					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				中枢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる。
	○	○				末梢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる。
	○	○				変性疾患・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療について説明できる。
	○	○				脳・神経機能障害のある患者の検査・処置について説明できる。
	○	○				感覚器系の疾患の病態と診断・治療について説明できる。
	○	○				内分泌系に疾病の病態と診断・治療について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる7 脳神経』メディックメディア 『病気がみえる3 糖尿病・代謝・内分泌』メディックメディア 『ナーシンググラフィカEX 疾患と看護6眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚』メディカ出版					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1・2	中枢神経系の病態の理解:脳血管障害				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	3	中枢神経系の病態の理解:脳血管障害・感染症・血管造影検査				指定課題への取り組み
	4	中枢神経系の病態の理解:頭部外傷・脊髄損傷・脳腫瘍・検査				指定課題への取り組み
	5	中枢神経系の病態・治療の理解:開頭術・穿頭術・ドレーン・脳血管内治療・血管バイパス術・低体温療法・脳死判定				指定課題への取り組み
	6	中枢神経系の病態の理解:認知症・変性疾患				指定課題への取り組み
	7	神経筋接合部の病態の理解:重症筋無力症 中枢・末梢神経系の病態の理解:脱髄疾患・末梢神経障害				指定課題への取り組み
	8	感覚器系の病態の理解:視覚障害・眼底検査・眼底光凝固療法・網膜剥離治療・眼内レンズ挿入術				指定課題への取り組み
	9	感覚器系の病態の理解:聴覚障害・耳鼻咽喉系の治療・聴力検査・鼓室形成術				指定課題への取り組み
	10・11	感覚器系の病態の理解:皮膚障害				指定課題への取り組み
	12	内分泌系の病態の理解:内分泌疾患の症状・病態生理				指定課題への取り組み
	13	内分泌疾患:甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・下垂体疾患				指定課題への取り組み
	14	内分泌系の病態の理解:代謝疾患の症状・病態生理				指定課題への取り組み
	15	代謝疾患:糖尿病・高脂血症・肥満症・尿酸代謝障害				指定課題への取り組み
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。				
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
筆記試験		◎	◎			80%
	授業態度			◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	病態と治療Ⅳ						
科目名(英)	Pathophysiology and TherapeuticsⅣ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中島 雄一		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	骨格筋・生殖器がもたらす身体内部の変化について理解し、機能障害・疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための知識を学ぶ(DP3)						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				骨・筋肉系の病態と診断・治療について説明できる。	
	○	○				生殖器系の病態と診断・治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる11 運動器・整形外科』メディックメディア 『病気がみえる9 婦人科・乳腺外科』メディックメディア 『病気がみえる8 腎・泌尿器』メディックメディア 『病気がみえる10 産科』メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	骨格筋の症状と病態生理:疼痛、形態の異常、関節運動の異常、異常歩行・跛行、神経の異常				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	骨格筋の症状と病態生理:異常歩行・跛行、神経の異常				指定課題への取り組み	
	3	骨格筋の疾患の理解(検査と治療):先天性疾患、骨折、脱臼、捻挫・打撲、骨・関節の炎症性疾患				指定課題への取り組み	
	4	骨格筋の疾患の理解(検査と治療):骨腫瘍、骨系統疾患、筋・腱の疾患、麻痺性疾患、脊椎疾患				指定課題への取り組み	
	5	女性生殖器系の症状と病態生理:出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨隆・腫瘍感、外陰部掻痒感、排尿障害、自律神経症状				指定課題への取り組み	
	6	女性生殖器系の疾患の理解(検査と治療):外陰の疾患、陰の疾患、子宮の疾患、卵管の疾患、卵巣の疾患				指定課題への取り組み	
	7	女性生殖器系の疾患の理解(検査と治療):月経異常・月経随伴症状、更年期障害、感染症疾患、不妊症、乳腺疾患				指定課題への取り組み	
	8	正常からの逸脱(ハイリスク妊娠の定義、頻度、スクリーニング)				指定課題への取り組み	
	9	異常妊娠				指定課題への取り組み	
	10	分娩力に関する正常からの逸脱・産道に関する正常からの逸脱・胎児およびその付属物に関する正常からの逸脱				指定課題への取り組み	
	11	正常からの逸脱(子宮復古不全、産褥熱、貧血、乳房トラブルなど)				指定課題への取り組み	
	12	男性生殖器系の症状と病態生理:尿・排尿の異常、疼痛				指定課題への取り組み	
	13	男性生殖器系の疾患の理解(検査と治療): 尿路の通過障害と機能異常尿路結石症、尿路損傷・異物男性生殖器疾患				指定課題への取り組み	
	14	男性生殖器系の疾患の理解(検査と治療):膀胱がん、前立腺がん、尿道がん				指定課題への取り組み	
	15	男性生殖器系の疾患の理解(検査と治療): 腎盂および尿管がん、腎実質腫瘍				指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
授業態度				◎		20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	臨床薬理学						
科目名(英)	Clinical Pharmacology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	草野 充裕		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて薬剤師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	領域横断科目の「薬物療法と看護」の基礎知識として、薬物の種類やその作用機序、副作用などの薬物の基礎知識を学ぶ。(DP3)						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬物治療の基礎知識が理解できる。	
	○	○				作用別に使用する薬物の特徴、作用機序、副作用が理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『疾病の成り立ちと回復の促進 臨床薬理学』, メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	薬理学総論			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	循環器系疾患で使用する薬			指定課題への取り組み		
	3	がん・痛みに使用する薬			指定課題への取り組み		
	4	脳・中枢神経系疾患で使用する薬			指定課題への取り組み		
	5	感染症に使用する薬			指定課題への取り組み		
	6	アレルギー・免疫不全状態に使用する薬			指定課題への取り組み		
	7	消化器系疾患、内分泌疾患、皮膚疾患に使用する薬			指定課題への取り組み		
	8	漢方薬			指定課題への取り組み		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	暮らしを支える法律						
科目名(英)	Daily Legal Issues						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	工藤 歩		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護師として質の高い看護を提供するために、まず社会人として充実した豊かな人生を送り、職業人として任務を果たす必要がある。そのために、生活の中にある法律の制定された歴史や背景、目的を理解し、目まぐるしく変化する社会の中で生活していることを意識させる。さらに法律の理解だけでなく、そこから自己の生涯のライフプランについて考える機会とする。(DP2・3)						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活をとりまく法律が制定された歴史や社会的背景を知り目的を理解することができる	
	○	○				法律と生活を関連させ、理解することができる。	
	○	○				自らのライフプランニングを考えることで看護を取り巻く法律の意味を考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	関係法規とは、暮らしを支える法律			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	疾病予防・健康増進に関連する法律～薬物に関する法律			指定課題への取り組み		
	3	疾病予防・健康増進に関連する法律～感染予防に関する法律			指定課題への取り組み		
	4	母子に関連する法律			指定課題への取り組み		
	5	小児に関する法律			指定課題への取り組み		
	6	高齢者に関する法律			指定課題への取り組み		
	7	障害者の保健と福祉に関する法律			指定課題への取り組み		
	8	そのほかの保健に関する法律～地域保健法など			指定課題への取り組み		
	9	福祉に関する法律			指定課題への取り組み		
	10	保険に関する法律			指定課題への取り組み		
	11	労働衛生に関する法律			指定課題への取り組み		
	12	環境・食品・公害に関する法律			指定課題への取り組み		
	13	その他の法律～臓器移植法、がん対策基本法など			指定課題への取り組み		
	14	法律とライフプラン			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護理論入門						
科目名(英)	Introduction to Nursing Theory						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	福田 和美		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護知識体系の構造とその意味を理解し、看護理論を看護実践に活用できるよう科学的、実践的な思考を養う。(DP3)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護知識体系構造とその意義を説明できる。	
	○	○		○		看護実践の基盤となる看護概念モデルを選択し、そのモデルについて説明できる。	
		○	○	○		選択した看護概念モデルまたは理論を事例に適用できる。	
テキスト・教材 参考図書	『看護理論第3版』 筒井真優美 南江堂 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	看護理論の特徴と目的			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2・3	ナイチンゲール			指定課題への取り組み		
	4・5	ヘンダーソンの看護理論			指定課題への取り組み		
	6	各理論における主要概念の捉え方			指定課題への取り組み		
	7・8・9	気になる看護理論についての調べ学習と学び共有会			指定課題への取り組み		
	10	マズローのニード論			指定課題への取り組み		
	11	エリクソン・ハヴィガーストの発達モデル			指定課題への取り組み		
	12・13・14	中範囲理論を活用した事例展開			指定課題への取り組み		
	15	まとめ			指定課題への取り組み		
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎				80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の展開						
科目名(英)	Deployment Methods of Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	鈴木 葉子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	効果的な看護を実践するために必要な思考過程(問題解決思考)を科学的根拠に則って表現する方法を学びます。看護過程を展開するために必要な基本的事項や構成要素について学びながら、紙上事例を通して対象の個別性を踏まえ、かつニーズにあった看護の実際について考えていきます。事例を用いてグループ学習、個人学習を取り入れていきます。積極的に学んで下さい。【DP 2.3.5.6】						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護過程を展開する意義・目的について説明できる。	
	○	○				看護過程を展開するための基盤となる考え方を説明できる。	
	○	○				看護過程を展開するための構成要素を学ぶ。	
	○	○				看護過程を展開するための具体的方法を学ぶ。	
	○	○		○		事例を用いて、看護過程の展開ができる。	
	○	○		○	○	自ら疑問をもち学習計画を立て、取り組み、学習課題を明確にできる。	
テキスト・教材 参考図書	T.ヘザー・ハードマン他原書編集:『NANDA-I 看護診断 原書第12版』, 2021, 医学書院 永田 明監修:『看護がみえるvol.4 看護過程の展開』, 2020, メディックメディア 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	看護を展開するとは			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	看護過程とは			配布資料の事前通読		
	3	看護過程の基盤となる考え方			配布資料の事前通読		
	4	看護展開の実際 ①アセスメントとは アセスメントの枠組み			配布資料の事前通読		
	5	看護展開の実際 ①アセスメント データ収集			配布資料の事前通読		
	6	看護展開の実際 ①アセスメントの実際 その1			配布資料の事前通読		
	7	看護展開の実際 ①アセスメントの実際 その2			配布資料の事前通読		
	8	看護展開の実際 ②看護診断 NANDA-I			配布資料の事前通読		
	9	看護展開の実際 ②看護診断			配布資料の事前通読		
	10	看護展開の実際 全体像のまとめ方			配布資料の事前通読		
	11	看護展開の実際 ③成果			配布資料の事前通読		
	12	看護展開の実際 ④看護計画立案 その1			配布資料の事前通読		
	13	看護展開の実際 ④看護計画立案 その2			配布資料の事前通読		
	14	看護展開の実際 ⑤看護介入の方法・実施記録の実際・評価の視点、方法			配布資料の事前通読		
15	まとめ 看護展開の振り返り			配布資料の事前通読			
評価方法	・筆記試験および講義内で指示したレポートの提出状況やその内容をもって評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				60%
レポート提出		◎		◎	◎	40%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	日常生活援助技術Ⅱ						
科目名(英)	Support Technique for Daily Life Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	木本 佳菜美		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	日常生活を整える援助技術として、清潔・衣生活援助と安楽をもたらす援助の、基本的な知識・方法を学び、ケアを実施提供できる基本的技術を身につける。(DP1・2・3・4・5)						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				清潔援助の基礎知識を説明することができる。	
	○	○				清潔状態に関する情報や援助の選択方法を説明できる。	
			○	○		清潔行動に関する基本的援助技術が実施できる。	
	○	○				苦痛の緩和・安楽確保の技術の基礎知識を説明できる。	
		○	○			安楽をもたらすケア方法を実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	清潔・衣生活の意義、目的、ニーズ、健康・心身への影響			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	清潔援助の効果、援助方法の選択、留意点			指定課題への取り組み		
	3	清潔・衣生活の援助：寝衣交換（演習）（点滴・ドレーンを留置していない患者の寝衣交換）			指定課題への取り組み		
	4・5	清潔・衣生活の援助：全身清拭・陰部の保清（演習）			指定課題への取り組み		
	6・7	清潔・衣生活の援助：洗髪（演習）			指定課題への取り組み		
	8	清潔・衣生活の援助：手浴・足浴（演習）			指定課題への取り組み		
	9	清潔・衣生活の援助：入浴介助・シャワー浴の介助・スキンケア・爪切り（演習）			指定課題への取り組み		
	10	清潔・衣生活の援助：口腔ケア・整容ケア（演習）			指定課題への取り組み		
	11	苦痛の緩和・安楽確保の技術とは、方法、効果、援助方法の選択 身体ケアを通じてもたらされる安楽とは			指定課題への取り組み		
	12	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア：安楽な体位、巻法（演習）			指定課題への取り組み		
	13	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア：触れるケア、タクティールケア、 マッサージなど（演習）			指定課題への取り組み		
	14・15	複合技術による援助 清潔援助において安楽をもたらすケア方法の実施（演習・技術試験）（点滴・ドレーンを留置している患者の寝衣交換）			指定課題への取り組み		
	評価方法	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
筆記試験		◎	◎				70%
授業態度		◎	◎	◎			30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	日常生活援助技術Ⅲ						
科目名(英)	Support Technique for Daily Life Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松本 好美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	日常生活を整える援助技術として、食事・排泄援助の基本的な知識・方法を学び、食事・排泄ケアを実施提供できる基本的技術を身につける。(DP1・2・3・4・5)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				食事援助の基礎知識を説明できる。	
	○	○				食事行動や栄養状態についての情報、援助の選択方法を説明できる。	
			○	○		基本的な食事援助技術が実施できる。	
	○	○				排泄援助の基礎知識を説明できる。	
	○	○				排泄行動、機能についての情報援助の選択方法を説明できる。	
		○	○			基本的な排泄援助技術が実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	食事援助の意義、目的、ニーズ、健康・心身への影響			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	食事行動・援助の効果(食欲・嚥下・栄養)、援助方法の選択、留意点、誤嚥時の対処方法			指定課題への取り組み		
	3	食事援助:準備、食事前の観察、嚥下の評価、間接訓練 (演習)			指定課題への取り組み		
	4	食事援助:食事中・後の観察、食事介助方法、直接訓練、片づけ (演習)			指定課題への取り組み		
	5	食事援助のシミュレーション訓練 (演習)			指定課題への取り組み		
	6	排泄援助の意義、目的、ニーズ、健康・心身への影響			指定課題への取り組み		
	7	排泄行動の一連、排泄パターンの観察と記録、排泄物の観察・記録の方法、片づけ方、排泄援助方法の選択、留意点			指定課題への取り組み		
	8	排泄援助:排泄後のオムツ交換援助 (演習)			指定課題への取り組み		
	9	排泄援助:尿便器での排泄援助 (演習)			指定課題への取り組み		
	10	排泄援助:床上(尿便器)・ポータブルトイレでの排泄自立への援助(演習)			指定課題への取り組み		
	11	排泄援助:身障者用トイレ・トイレでの排泄自立への援助 (演習)			指定課題への取り組み		
	12	排泄援助:便秘時の対処方法(浣腸、腹部マッサージ、摘便) (演習)			指定課題への取り組み		
	13	排泄援助:排泄援助のシミュレーション訓練 (演習)			指定課題への取り組み		
	14・15	複合技術による援助 食事行動と排泄行動のケア方法の実施(演習・技術試験)			指定課題への取り組み		
評価方法	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
	授業態度		◎	◎	◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	フィジカルイグザミネーション						
科目名(英)	Physical Examination						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	木本 佳菜美		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護におけるフィジカルアセスメントとは、患者の状態を判断する目的がある。患者の状態から緊急性の有無を判断し、必要なケアを正しく判断するためにフィジカルイグザミネーションを身につける(DP3・4)						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				対象の健康状態を評価する意義と方法を説明できる。	
	○	○	○	○		バイタルサインの測定および記録・報告ができる。	
	○	○	○	○		基本的なフィジカルイグザミネーションを実施できる。	
	○	○	○	○		系統別フィジカルイグザミネーションで得られる情報からの異常な身体状況を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I』メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II』メディカ出版 『フィジカルアセスメントがみえる』メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	観察とは、目的・方法(系統的、直感的観察法) 観察の視点(身体的・精神的・社会的アセスメント)				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	ヘルスアセスメントとは：ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント・ フィジカルイグザミネーションの関係性・身体計測				指定課題への取り組み	
	3	フィジカルアセスメントに必要な技術：①視診②触診③聴診④打診⑤問診				指定課題への取り組み	
	4	バイタルサインの観察とアセスメント：①体温測定②脈拍測定③呼吸測定				指定課題への取り組み	
	5	バイタルサインの観察とアセスメント：④血圧測定⑤意識				指定課題への取り組み	
	6	バイタルサイン測定の実際：体温・呼吸・脈拍				指定課題への取り組み	
	7	バイタルサイン測定の実際：血圧				指定課題への取り組み	
	8	バイタルサイン測定の実際：血圧・意識				指定課題への取り組み	
	9	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際：呼吸器系				指定課題への取り組み	
	10	フィジカルイグザミネーションの実際：消化器系				指定課題への取り組み	
	11	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際：中枢神経系				指定課題への取り組み	
	12	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際：循環器系				指定課題への取り組み	
	13	記録とは(記録の目的・記録の方法・種類)				指定課題への取り組み	
	14	報告とは(報告の目的・方法)				指定課題への取り組み	
15	技術評価				指定課題への取り組み		
環境	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
授業態度		◎	◎	◎			30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	地域・在宅看護論概論						
科目名(英)	Overview of Nursing for Community/Home Health Care						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	地域・在宅看護論概論では、地域・在宅看護の目的・位置づけ・基本的視点をもとに、地域・在宅看護に関わる法令・制度を理解し、地域で生活・療養する人とその家族をサポートする看護の基礎的知識を学ぶ。(DP3・4)						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域・在宅看護の目的、位置づけ、役割と機能が説明できる。	
	○	○				地域・在宅看護の対象、場、基本的視点について説明できる。	
	○	○				地域・在宅看護におけるケアマネジメント、多職種連携について説明できる。	
	○	○				地域療養を支える制度とその活用について説明できる。	
	○	○				地域療養を支える多様な場での看護の実際を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤』, 医学書院 『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護論の実践』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地域・在宅看護の目的、在宅看護の位置づけ、在宅看護の役割と機能			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	地域・在宅看護の対象者、在宅看護の場、在宅看護の基本的視点			指定課題への取り組み		
	3	地域包括ケアシステムにおける看護の役割、自助・互助・共助・公助			指定課題への取り組み		
	4	地域・在宅看護におけるケアマネジメント、多職種連携・協働の意義			指定課題への取り組み		
	5	地域療養を支える制度①「医療保険制度」			指定課題への取り組み		
	6	地域療養を支える制度②「介護保険制度」			指定課題への取り組み		
	7	地域療養を支える制度③「訪問看護制度」			指定課題への取り組み		
	8	地域療養を支える制度④「訪問看護制度」			指定課題への取り組み		
	9	地域療養を支える看護が提供される多様な場 調べ学習(演習)			指定課題への取り組み		
	10	以下のような地域にある様々な施設などを調べ学習を通して、その法的根拠、利用者の特徴、看護の役割、など学ぶ			指定課題への取り組み		
	11	病院、居宅、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、介護保険施設、地域包括支援センター、介護事業所、など			指定課題への取り組み		
	12	地域療養を支える看護が提供される多様な場 調べ学習のまとめ(演習)			指定課題への取り組み		
	13	地域療養を支える看護が提供される多様な場 学びの共有(演習)			指定課題への取り組み		
	14	地域療養を支える看護が提供される多様な場 学びの共有・まとめ(演習)			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	地域・在宅看護論援助論						
科目名(英)	Overview of Assistance and Support Method for Community/Home Health Care						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	地域で生活する人々とその家族が抱える課題をアセスメントするために必要な基礎知識を学ぶ。(DP3)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域・在宅における生活アセスメントの視点を説明できる	
	○	○				地域・在宅における継続看護について説明できる	
	○	○				地域・在宅看護過程の特徴・ポイント・展開方法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤』, 医学書院 『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護論の実践』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地域・在宅における健康保持増進・疾病予防への看護			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	地域・在宅における日常生活を支える援助 ヘルスアセスメント			指定課題への取り組み		
	3	地域・在宅における日常生活を支える援助 生活アセスメント(食生活・排泄・清潔)			指定課題への取り組み		
	4	地域・在宅における日常生活を支える援助 生活アセスメント(活動・環境・コミュニケーション・交流)			指定課題への取り組み		
	5	地域・在宅における日常生活を支える援助 生活アセスメント 学びのまとめ・共有			指定課題への取り組み		
	6・7	地域・在宅における継続看護 状態・時期・場の移行に応じた看護の実際			指定課題への取り組み		
	8	地域・在宅における継続看護 状態・時期・場の移行に応じた看護 共有			指定課題への取り組み		
	9	地域・在宅看護過程の特徴・ポイント・展開方法			指定課題への取り組み		
	10・11	事例を通して在宅看護過程の展開方法 対象・生活をとらえる情報			指定課題への取り組み		
	12	事例を通して在宅看護過程の展開方法 関連図の書き方			指定課題への取り組み		
	13	事例を通して在宅看護過程の展開方法 看護計画のポイント			指定課題への取り組み		
	14	事例を通して在宅看護過程の展開方法 学びの共有・リフレクション			指定課題への取り組み		
	15	まとめ			指定課題への取り組み		
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎				80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学概論						
科目名(英)	Overview of Adult Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松ノ木 幸恵		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	成人期にある対象を統合的に理解し、健康の維持増進・疾病の予防・健康レベルの回復に関わる看護に学ぶ。(DP1・3・4)						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とその発達課題を説明できる。	
	○	○				成人期にある人を取り巻く社会と健康に関する動向、健康問題の特徴を説明できる。	
	○	○				成人期にある人の健康状態や健康問題に対応した看護の基本的な考え方や援助方法を説明できる。	
○	○				成人期の健康生活を促すための看護技術について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	『成人看護学概論 第2版〈1〉』, メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	成人の特徴				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	成人と生活				指定課題への取り組み	
	3	生活と健康:成人を取り巻く環境と生活からみた生活				指定課題への取り組み	
	4	生活と健康:生活と健康をまもりはぐくむシステム				指定課題への取り組み	
	5	成人への看護アプローチの基本:生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助				指定課題への取り組み	
	6	成人への看護アプローチの基本:チームアプローチ				指定課題への取り組み	
	7	成人への看護アプローチの基本:看護におけるマネジメント				指定課題への取り組み	
	8	生活習慣に関する健康障害				指定課題への取り組み	
	9	ワーク・ライフ・バランスと健康障害の関連				指定課題への取り組み	
	10	健康障害に対する看護				指定課題への取り組み	
	11	各病期における看護				指定課題への取り組み	
	12	学習者である患者への看護技術:エンパワメント・エデュケーション				指定課題への取り組み	
	13	学習者である患者への看護技術:セルフマネジメント・自己効力を高める看護技術				指定課題への取り組み	
	14	症状マネジメントにおける看護技術:症状マネジメントと看護				指定課題への取り組み	
15	症状マネジメントにおける看護技術:症状マネジメントと看護実践モデル				指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学概論						
科目名(英)	Overview of Gerontological Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	河村 佳緒理		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	より広い観点から高齢化の現状を捉えるため、人口統計的な知識・社会構造的な知識から、高齢社会の現状と課題、ヘルスケアシステムなどについて学ぶ。 また、老年看護を学ぶ基礎として、老年期の定義、そして高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と生活への影響などについて学ぶ。(DP1・3)						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高齢社会の現状と課題と社会の仕組みについて説明できる。	
	○	○				老年期について定義、発達課題などについて説明できる。	
	○	○				高齢者の健康の特徴、について説明できる。	
	○	○				加齢に伴う高齢者の身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。	
○	○				老年看護の役割や、基本となる考え方(変遷、倫理、特徴、高齢者理解の概念)について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	北川 公子：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	高齢者体験(演習)			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	老年期とは/高齢社会の現状と課題(高齢化率など統計的背景)			指定課題への取り組み		
	3	加齢と老化/身体的・心理的・社会的機能の変化、高齢者の疾病の特徴			指定課題への取り組み		
	4	加齢に伴う身体機能の変化:運動器系・循環器系・呼吸器系			指定課題への取り組み		
	5	加齢に伴う身体機能の変化:外皮系・視覚・聴覚・味覚・嗅覚			指定課題への取り組み		
	6	加齢に伴う身体機能の変化:消化器系			指定課題への取り組み		
	7	加齢に伴う身体機能の変化:泌尿生殖器系・ホルモン分泌			指定課題への取り組み		
	8	加齢変化に伴う身体機能の変化:まとめ			指定課題への取り組み		
	9	高齢社会の現状と課題(高齢者虐待・安全確保と身体拘束・権利擁護)			指定課題への取り組み		
	10	高齢社会の現状と課題(保健医療福祉の動向)			指定課題への取り組み		
	11	老年看護の成り立ち(老年看護の変遷)			指定課題への取り組み		
	12	老年看護の目指すもの(考え方、生活行動モデル、目標指向型思考)			指定課題への取り組み		
	13	高齢者の生活機能<ICF>			指定課題への取り組み		
	14	高齢者の生活機能の評価、高齢者総合機能評価<CGA>			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
授業態度				◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護を知る実習						
科目名(英)	Familiarization Practice in Nursing						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	松本 好美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	病院における患者の看護を学ぶ。健康障害をもち療養している対象を、総合的にとらえてニーズや看護を考え、看護の対象を総合的にアセスメントする方法が理解できるよう日常生活援助技術の実践を行い、看護を追求する。(DP1・2・3・4・5・6)病棟にて74時間、学内にて16時間						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		入院患者の生命・尊厳・権利を理解し、生活者としての尊厳を守る倫理的配慮を行うことができる。	
	○	○				健康障害が対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を理解することができる。	
	○	○	○	○		健康障害を持つ対象の日常生活の状態を判断し、根拠に基づいた日常生活援助を実践することができる。	
	○	○	○	○		健康障害を持つ対象の問題解決のための医療チームの中での看護師の役割が理解できる。	
	○		○			看護実践を振り返り、自己の課題と看護について考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	「看護学概論」「看護理論入門」「基礎看護技術総論」「日常生活援助技術Ⅰ」、講義資料						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	病棟実習において受け持ち患者を通して生命の尊さを考える			実習要項の事前通読及び、指定課題への取り組み		
		対象の入院前の生活から健康と環境の関係を考える			指定課題への取り組み		
		入院による環境の変化が及ぼす影響と入院療養環境調整技術			指定課題への取り組み		
		健康状態のアセスメントに必要な主観的・客観的情報収集			指定課題への取り組み		
		看護に必要な情報の整理と、分析・解釈			指定課題への取り組み		
		身体的・精神的・社会的側面を捉えた全体関連図と看護の方向性			指定課題への取り組み		
		科学的根拠に基づき個別性のある看護計画立案			指定課題への取り組み		
		科学的根拠に基づいた日常生活援助実践			指定課題への取り組み		
		対象者を含むチームメンバーの中での看護問題解決			指定課題への取り組み		
		日常生活援助実践の評価・修正			指定課題への取り組み		
		看護実践の振り返りと自己の課題、看護観			指定課題への取り組み		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者: 指導教員と臨床指導者。 ・評価基準: 5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%)、100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						